

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標の試算結果  
(平成30年度から令和4年度まで)

【石狩市上水道事業】

目標	分類	区分	番号	業務指標名	望ましい数値	試算結果					備考	
						H30	R01	R02	R03	R04		
A 安全で良質な水	① 運営管理	1 水質管理	A101	平均残留塩素濃度 (mg/L) 〔残留塩素濃度合計/残留塩素測定回数〕	—	規格改定に伴い比較不可	0.40	0.42	0.44	給水栓での残留塩素測定濃度の平均値を表す指標。		
			A101	最大カビ臭物質濃度水質基準比率 〔値、項目名〕〔%〕 〔(最大カビ臭物質濃度/水質基準値)×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	0.00	0.0	0.0	給水栓におけるカビ臭物質濃度の最大値の水質基準に対する割合を表す指標。		
			A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率 〔%〕 〔Σ(給水栓の総トリハロメタン濃度/給水栓数)/水質基準値×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	19.0	18.0	17.0	給水栓における総トリハロメタン最大濃度の水質基準値に対する割合を示す。水道水の安全性を表す指標の一つ。		
			A104	有機物(TOC)濃度水質基準比率 〔%〕 〔Σ(給水栓の有機物(TOC)濃度/給水栓数)/水質基準値×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	23.3	23.3	23.3	給水栓における有機物(TOC)最大濃度の水質基準値に対する割合を示す。水道水の安全性を表す指標の一つ。		
			A105	重金属濃度水質基準比率 〔値、項目名〕〔%〕 〔Σ(給水栓の当該重金属濃度/給水栓数)/水質基準値×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	0.00	0.0	0.0	給水栓における重金属濃度の水質基準値に対する割合を示す。水道水の安全性を表す指標の一つ。		
			A106	無機物質濃度水質基準比率 〔値、項目名〕〔%〕 〔Σ(給水栓の当該無機物質濃度/給水栓数)/水質基準値×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	26.7	26.7	16.7	給水栓における無機物質濃度の水質基準値に対する割合を示す。水道水の安全性を表す指標の一つ。		
			A107	有機塩素化学物質濃度水質基準比率 〔値、項目名〕〔%〕 〔Σ(給水栓の当該有機化学物質濃度/給水栓数)/水質基準値×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	0.00	0.0	0.0	給水栓における有機化学物質濃度の水質基準値に対する割合を示す。原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す指標の一つ。H23年度から1,1,2-トリクロロエチンの測定値なし		
			A108	消毒副生成物濃度水質基準比率 〔値、項目名〕〔%〕 〔Σ(給水栓の当該消毒副生成物濃度/給水栓数)/水質基準値×100〕	↓	規格改定に伴い比較不可	20.0	23.3	16.7	給水栓における消毒副生成物濃度の水質基準値に対する割合を示す。原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す指標の一つ。		
			A109	農薬濃度水質管理目標比 〔%〕 〔maxΣ(xij/GVj)〕	↓	規格改定に伴い比較不可	データなし	データなし	データなし	給水栓における各農薬濃度と水質管理目標値との比の合計を示すもので、水源の汚染状況及び水道水の安全性を表す指標の一つ。指標値は0%を維持している。		
			2 施設管理	A201	原水水質監視度 〔項目〕 原水水質監視項目数	↑	43	43	43	43	43	原水水質の項目をどの程度監視しているかを示す。原水監視の取組状況を表す指標。*年間1回以上監視している項目数
	A202	給水栓水質検査(毎日)箇所密度 〔箇所/100km <sup>2</sup> 〕 〔(給水栓水質検査(毎日)採水箇所/給水区域面積)×100〕		↑	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	給水区域100km <sup>2</sup> あたりの毎日水質検査をしている箇所数を示す。一定の値で推移している。		
	A203	配水池清掃実施率 〔%〕 〔(5年間に清掃した配水池有効容量/配水池有効容量)×100〕		↑	規格改定に伴い比較不可	43.1	32.6	40.2	配水池有効容量に対する5年間に清掃した配水池有効容量の割合を示す。安全で良質な水への取組み度合を表す指標の一つ。			
	A204	直結給水率 〔%〕 〔(直結給水件数/給水件数)×100〕		↑	97.8	97.7	87.5	99.5	99.5	受水槽を経由せず直接給水される物件の割合を示す。安全で良質な給水の観点から		
	A205	貯水槽水道指導率 〔%〕 〔(貯水槽水道指導件数/貯水槽水道総数)×100〕		↑	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	私有財産である貯水槽水道に対する関与の状況を表す指標。		
	3 事故災害対策	A301	水源の水質事故数 (件) 年間水源水質事故件数	↓	0	0	0	0	0	水源の有害物質(油・化学物質の流出など)による水質汚染の回数を示す。		
		A302	粉末活性炭処理比率 〔%〕 〔(粉末活性炭年間処理水量/年間浄水量)×100〕	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	粉末活性炭を使用した日数の割合を示す。粉末活性炭を使用している施設はない。		
	④ 施設整備	4 施設更新	A401	鉛製給水管率 〔%〕 〔(鉛製給水管使用件数/給水件数)×100〕	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	給水件数に占める鉛製給水管の使用件数の割合を示す。現在、鉛製給水管の新たな使用は認められていない。当市は残存なし。	
	B 安定した水の供給	① 運営管理	1 施設管理	B101	自己保有水源率 〔%〕 〔(自己保有水源水量/全水源水量)×100〕	↑	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	自己水源は厚田・浜益の数値。全水源は石狩西部からの受水量を含んで知るため低い値になっている。
				B102	取水量1m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額 (円/m <sup>3</sup> ) 〔水源保全に投資した費用/その流域からの取水量〕	—	0	0	0	0	0	取水1m <sup>3</sup> 当たりの水質保全に対する投資費用を示すもの。水質保全への取り組み状況を表す指標。
				B103	地下水率 (%) 〔(地下水揚水量/水源利用水量)×100〕	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	水源としての井戸水の利用状況を表す指標。現
B104				施設利用率 (%) 〔(一日平均給水量/施設能力)×100〕	↑	65.0	65.5	66.5	68.0	66.8	施設能力をどの程度平均的に利用しているかを表す指標。値が高いほど効率的な運用がされていることを表すが、大きすぎる場合は予備能力が不足していることを示す。	
B105				最大稼働率 (%) 〔(一日最大給水量/施設能力)×100〕	↑	75.6	75.1	77.2	76.7	74.2	年間で最も多く給水した日の給水量が、施設能力に対してどの程度の割合かを示す指標。値が高いほど効率的な運用がされていることを表すが、大きすぎる場合は予備能力が不足していることを示す。	
B106				負荷率 (%) 〔(一日平均配水量/一日最大配水量)×100〕	↑	86.0	87.3	86.1	88.7	90.1	施設が年間を通して効率的に利用されているかを示す指標。	

目標	分類	区分	番号	業務指標名	望ましい数値	試算結果					備考		
						H30	R01	R02	R03	R04			
B 安定した水の供給	1 施設管理		B107	配水管延長密度 (km/km <sup>2</sup> ) 〔配水管延長/給水区域面積〕	↑	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	給水面積あたりの配水管の延長を示すもので、お客様からの給水の申込みに対する物理的利便性の度合いを示す。		
			B108	管路点検率 (%) 〔(点検した管路延長/管路総延長)×100〕	↑	2.0	0.0	0.3	0.1	0.1	管路延長に対する1年間で点検した管路延長の割合を示すもの。管路の健全性確保のための取組状況を表す指標。		
			B109	バルブ点検率 (%) 〔(点検したバルブ数/バルブ設置数)×100〕	↑	新規追加指標		0.0	0.1	0.1	バルブ設置数に対する1年間に点検したバルブ数の割合を示す		
			B110	漏水率 (%) 〔(年間漏水量/年間配水量)×100〕	↓	7.2	7.2	6.7	7.2	6.8	年間配水量に対する漏水量の割合を示す。		
			B111	有効率 (%) 〔(年間有効水量/年間配水量)×100〕	↑	新規追加指標		92.5	92.5	92.7	年間配水量に対する年間有効水量の割合を示す。経営効率性を表す。経営効率化を図る。		
			B112	有収率 (%) 〔(年間有収水量/年間配水量)×100〕	↑	86.7	86.8	87.0	86.5	86.2	年間の給水量に対する有収水量(料金徴収の対象となった水量)の割合を表す指標。値が高ほど効率的な事業運営がなされているといえる。		
			B113	配水池貯留能力 (日) 〔配水池総容量/一日平均配水量〕	↑	0.90	0.90	0.89	0.87	0.88	水道水を貯めておく配水池の総容量が平均配水量の何日分あるかを示すもので、給水に対する安定性を示す。		
			B114	給水人口一人当たり配水量 (L/日/人) 〔(一日平均配水量/給水人口)×1000〕	-	273	275	279	286	282	給水人口1人当たり1日何リットル配水したかを示す。		
			B115	給水制限日数 (日) 年間給水制限日数	↓	0	0	0	0	0	一年間に給水制限を実施した日数を示すもので、給水サービスの安定性を示す。		
			B116	普及率 (%) 〔(給水人口/給水区域内人口)×100〕	↑	99.6	99.6	99.7	99.7	99.7	給水区域内で水道を使用している人の割合を示すもので、サービス享受の状況および地域性を表す。		
			B117	設備点検実施率 (%) 〔(点検機器数/電気・計装・機械設備の合計数)×100〕	↑	規格決定に伴い比較不可		100	100	100	電気・機械等の設備の点検がどの程度実施されたかを示す。施設の健全性確保に対する点検割合を示す指標。		
			2 事故災害対策		B201	浄水場事故割合 (10年間の件数/箇所) 〔10年間の浄水場停止事故件数/浄水場数〕	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	直近10年間に浄水場が事故で停止した件数を1浄水場あたりの割合として示したものの。施設の信頼性を表す指標。
					B202	事故時給水人口率 (%) 〔(事故時給水人口/給水人口)×100〕	↓	49.2	49.2	49.2	49.3	49.3	最大浄水場が24時間全面停止した場合に、給水出来ない人口の給水人口に対する割合を表す。
					B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量 (L/人) 〔(配水池有効容量×1/2+緊急貯水槽容量)×1000/給水人口〕	↑	123	123	124	124	124	配水池等に貯められている給水人口1人あたりの貯留水量を示す。地震時など緊急時の応急給水のために利用される。地震直後では1人3L必要とされる。値は高い方がよい。
					B204	管路の事故割合 (件/100km) 〔管路の事故件数/(管路総延長/100)〕	↓	1.0	1.0	1.1	0.6	1.1	1年間における罫・送・配水管路の事故件数を延長100kmあたりの件数に換算したものの。管路の健全性を表す指標。
					B205	幹線管路の事故割合 (件/100km) 〔(幹線管路の事故件数/(基幹管路延長/100))〕	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	年間の幹線管路100kmあたりに対しての事故件数を表す。
					B206	鉄製管路の事故割合 (件/100km) 〔鉄製管路の事故件数/(鉄製管路総延長/100)〕	↓	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	1年間における鉄製管路(鑄鉄管・ダクタイル鑄鉄管・鋼管)で発生した事故件数を示すもの。鉄製管路の健全性を表す指標。
	B207	非鉄製管路の事故割合 (件/100km) 〔非鉄製管路の事故件数/(非鉄製管路総延長/100)〕			↓	2.7	3.0	2.3	1.5	3.0	1年間における非鉄製管路(塩化ビニル管等)の事故件数を延長100kmあたりの件数に換算したもので、非鉄製管路の健全性を表す指標。		
	B208	給水管の事故割合 (件/1000件) 〔給水管の事故件数/(給水管数/1000)〕			↓	2.2	2.4	1.3	1.7	1.5	給水管1,000件あたりの給水管の事故件数を示しており、配水管分岐から水道メーターまでの給水管の健全性を表す指標。		
	B209	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間 〔時間〕 〔Σ(断水・濁水時間×断水・濁水区域給水人口)/給水人口〕			↓	0.00	0.00	0.05	0.00	0.01	給水人口1人あたりの断水・濁水時間の割合を示す。想定外の断水・濁水の発生状況を表す指標。		
	B210	災害対策訓練実施回数 (回/年) 〔年間の災害対策訓練実施回数〕			↑	規格決定に伴い比較不可		1	1	1	1年間に災害対策訓練を実施した回数を示すもので、自然災害に対する危機対応性を表す指標。		
	B211	消火栓設置密度 (基/km) 〔消火栓数/配水管延長〕	↑	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	配水管1kmあたりの消火栓の設置数を表す。管路施設の消防能力や救命ライフラインとしての危機対応能力を表す指標。				
	3 環境対策		B301	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量 (kWh/m <sup>3</sup> ) 〔全施設の電力消費量/年間配水量〕	↓	0.30	0.30	0.30	0.31	0.32	1m <sup>3</sup> の水を供給するために要した電力消費量を表す。省エネルギー対策への取組み度合いを表す指標。値が低いほど効率がよい。		
			B302	配水量1m <sup>3</sup> 当たり消費エネルギー (MJ/m <sup>3</sup> ) 〔エネルギー消費量/年間配水量〕	↓	1.16	1.15	3.11	3.19	2.81	1m <sup>3</sup> の水を供給するために要した消費エネルギーを示す。省エネルギー対策への取組み度合いを表す指標。値が低いほど効率がよい。		
			B303	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量 (g・CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> ) 〔(二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量/年間配水量)×10 <sup>6</sup> 〕	↓	規格決定に伴い比較不可		137.8	130.0	122.9	1m <sup>3</sup> の水を供給するために何gの二酸化炭素を排出したかを表す。環境保全への取組み度合いを表す指標。値が低いほど地球環境への影響が小さい。		

目標	分類	区分	番号	業務指標名	望ましい数値	試算結果					備考
						H30	R01	R02	R03	R04	
B 安定した水の供給	① 運営管理	3 環境対策	B304	再生可能エネルギー利用率 (%) <small>(再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量) × 100</small>	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	全施設の電力使用量に対する再生可能エネルギーの利用の割合を示す。環境負荷低減に対する取り組み度合を表す指標。
			B305	浄水発生土の有効利用率 (%) <small>[(有効利用土量 / 浄水発生土量) × 100]</small>	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	浄水発生土に対する有効利用土量の割合を示す。環境保全への取組度合を表す指標。
			B306	建設副産物のリサイクル率 (%) <small>[(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物排出量) × 100]</small>	↑	87.4	96.5	85.8	76.6	78.3	水道工事などで発生する建設副産物のうち、リサイクルされた建設副産物の割合を示す。環境保全への取組度合を表す指標。
	5 施設更新	4 施設管理	B401	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率 (%) <small>[(ダクタイル鋳鉄管延長 + 鋼管延長) / 管路総延長] × 100</small>	↑	63.3	63.2	63.1	63.0	62.6	全管路延長に対するダクタイル鋳鉄管・鋼管の割合を示すもので、一般的に鉄製水道管は信頼性が高いとされている。
			B402	管路の新設率 (%) <small>(新設管路延長 / 管路総延長) × 100</small>	-	0.01	0.06	0.08	0.21	0.62	年間に新たに布設した導・送・配水管の延長をいう。管路整備の度合いを表す指標。
		B501	法定耐用年数超過浄水施設率 (%) <small>(法定耐用年数を超過した浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100</small>	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	浄水施設の経年率を表す指標。法定耐用年数(60年)を超えている浄水施設の施設能力が全能力に占める割合。法定耐用年数(60年)を超えた施設はありません。	
		B502	法定耐用年数超過設備率 (%) <small>(法定耐用年数を超過している電気・機械・計装設備の合計数 / 電気・機械・計装設備の合計数) × 100</small>	↓	52.3	52.3	53.1	56.2	62.5	電気・機械設備の経年率を表す指標。設備の種類に応じて設定された経年率(10~20年)を超えている電気・機械設備が総数に占める割合。更新計画をたて計画的に設備を更新している。	
		B503	法定耐用年数超過管路率 (%) <small>(法定耐用年数を超過している管路延長 / 管路総延長) × 100</small>	↓	15.7	15.3	14.9	14.4	14.3	管路の経年率を表す指標。法定耐用年数(40年)を超えている管路延長が総延長に占める割合。更新計画をたて計画的に設備を更新している。	
		B504	管路の更新率 (%) <small>(更新された管路延長 / 管路総延長) × 100</small>	↑	0.66	0.54	0.45	0.33	0.32	年間に更新された導・送・配水管の割合を表す。更新計画をたて計画的に設備を更新している。	
		B505	管路の更生率 (%) <small>(更生された管路延長 / 管路総延長) × 100</small>	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	年間に更生された導・送・配水管の割合を表す。更生とは、既設管内面のライニング補修のことをいう。管路の更新は実施しているが、更生は実施していない。	
		B601	系統間の原水融通率 (%) <small>(原水融通能力 / 全浄水施設能力) × 100</small>	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	他系統からの融通可能な原水量の割合であり、水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を表す指標。花川地区は石狩西部からの受水、厚田、浜益区は各浄水場を備えている。それぞれに離れており、多系統からの融通が困難である。	
		B602	浄水施設の耐震化率 (%) <small>(耐震対策の施されている浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100</small>	↑	規程決定に伴い比較不可		91.7	91.7	91.7		浄水施設の耐震化の状況を表す指標。
		B602-2	浄水施設の主要構造物耐震化率 (%) <small>[(沈澱・ろ過を有する施設の耐震化浄水施設能力 / 全施設の耐震化浄水施設能力) / (全浄水施設能力) × 100]</small>	↑	新規追加指標		91.7	91.7	91.7		浄水施設のうち主要構造物である、沈澱池及びろ過池に対する耐震対策が施されている割合を示す。浄水施設の耐震化率(B602)の進捗状況を表す指標。
	B603	ポンプ所耐震化率 (%) <small>(耐震対策の施されているポンプ所能力 / 耐震化対象ポンプ所能力) × 100</small>	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施された配水池の容量の割合を示す。地震災害に対するポンプ施設の信頼性、安全性を表す指標。*耐震診断を行っていないため、レベル2対応である科学的根拠がない。	
	B604	配水池耐震施設率 (%) <small>(耐震対策の施されている配水池有効容量 / 配水池等有効容量) × 100</small>	↑	84.7	88.3	80.3	91.3	91.3		全配水池容量に対する耐震対策が施されたポンプ所の割合を示す。地震災害に対する配水池の信頼性、安全性を表す指標。*耐震診断を行っていない施設もあるため、レベル2対応である科学的根拠がない。	
	B605	管路の耐震化率 (%) <small>(耐震管延長 / 管路総延長) × 100</small>	↑	13.0	13.5	14.1	14.5	15.3		導・送・配水管(配水管含む)すべての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示す。地震災害に対する水道管路網の信頼性、安全性を表す指標。*配水管ポリエチレン管を含む。	
	B606	基幹管路の耐震管率 (%) <small>(基幹管路のうち耐震管延長 / 基幹管路延長) × 100</small>	↑	新規追加指標		61.8	61.8	61.8		基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示す。地震災害に対する基幹管路の安全性・信頼性を表す指標。*配水管ポリエチレン管を含む。	
	B606-2	基幹管路の耐震適合率 (%) <small>(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長 / 基幹管路延長) × 100</small>	↑	新規追加指標		61.8	61.8	61.8		基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示す。基幹管路の耐震管率(B606)を補足する指標。*配水管ポリエチレン管を含む。	
	B607	重要給水施設配水管路の耐震管率 (%) <small>(重要給水施設配水管路のうち耐震管延長 / 重要給水施設配水管路延長) × 100</small>	↑	新規追加指標		51.3	51.7	52.1		重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示す。大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性・信頼性を表す指標。*配水管ポリエチレン管を含む。	
	B607-2	重要給水施設配水管路の耐震適合率 (%) <small>(重要給水施設配水管路のうち耐震適合性のある管路延長 / 重要給水施設配水管路延長) × 100</small>	↑	新規追加指標		51.3	51.7	52.1		重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示す。重要給水施設配水管路の耐震管率(B607)を補足する指標。*配水管ポリエチレン管を含む。	
	B608	停電時配水量確保率 (%) <small>(全施設停電時に確保できる配水能力 / 一日平均配水量) × 100</small>	↑	規程決定に伴い比較不可		148	145	148		一日平均配水量に対する全施設が停電した場合に確保できる配水能力割合を示す。災害時・広域停電時における危機対応性を表す。*停電時でも配水できるように自家発電機の整備および燃料を貯蔵して浄水場で使う薬品の平均貯蔵量に対する一日平均使用量の割合を示す。災害に対する危機対応能力を表す指標。*全浄水場の平均値	
	B609	薬品備蓄日数 (日) <small>[(平均薬品貯蔵量 / 薬品一日平均使用量) 又は (平均薬品貯蔵量 / 薬品一日平均使用量) のうち小さい方の値]</small>	↑	規程決定に伴い比較不可		35	30	31		浄水場で使う薬品の平均貯蔵量に対する一日平均使用量の割合を示す。災害に対する危機対応能力を表す指標。*全浄水場の平均値	
	B610	燃料備蓄日数 (日) <small>[平均燃料貯蔵量 / 一日燃料使用量]</small>	↑	規程決定に伴い比較不可		0.5	0.5	0.5		災害時等への備えを表す指標。燃料とは、自家発電設備を稼働するための油類等をいう。	
	B611	応急給水施設密度 (箇所 / 100km <sup>2</sup> ) <small>[(配水池・緊急貯水槽数 / 給水区域面積) × 100]</small>	↑	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6		給水区域100km <sup>2</sup> 当たりの給水拠点数であり、緊急時の利用しやすさを表す。	
B612	給水車保有度 (台 / 1000人) <small>[給水車数 / (現在給水人口 / 1000)]</small>	↑	0.017	0.017	0.017	0.017	0.017		災害時等への備えを表す指標。給水人口1,000人当たりの給水車数をいう。平成31年3月に1台購入。(加圧装置付タンク車、3m)		

目標	分類	区分	番号	業務指標名	望ましい数値	試算結果					備考
						H30	R01	R02	R03	R04	
C 健全な事業経営	①財務	1健全経営	B613	車載用の給水タンク保有度 (m <sup>3</sup> /1000人) 〔車載用給水タンクの容量／(給水人口／1000)〕	↑	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	災害時等への備えを表す指標。災害時の給水人口1,000人当たりの車載用給水タンク保有度を表す。給水タンク車3m <sup>3</sup> と車載用としてアルミ製2m <sup>3</sup> タンクおよび1m <sup>3</sup> タンクおよび仮設給水タンク1m <sup>3</sup> ×2を保有し
			C101	営業収支比率 (%) (営業収益／営業費用)×100	↑	88.6	88.0	87.9	86.9	82.0	営業収益の営業費用に対する割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標。
			C102	経常収支比率 (%) 〔(営業収益＋営業外収益)／(営業費用＋営業外費用)〕×100	↑	109.7	106.4	106.6	104.8	98.4	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す指標。
			C103	総収支比率 (%) (総収益／総費用)×100	↑	107.9	106.1	106.4	104.6	99.2	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す指標。
			C104	累積欠損金比率 (%) 〔累積欠損金／(営業収益－受託工事収益)〕×100	↓	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	受託工事収益を除く営業収益に対する累積欠損金の割合を示すもので、水道事業の健全性を表す指標。値は0が望ましい。累積欠損金は発生しておらず、健全な財務状況といえる。
			C105	繰入金比率(収益的収入分) (%) (損益勘定繰入金／収益的収入)×100	↓	17.4	15.3	15.2	14.5	13.3	収益的収入に対する損益勘定繰入金の依存度を示しており、水道事業の経営状況を表す指標。
			C106	繰入金比率(資本的収入分) (%) (資本勘定繰入金／資本的収入)×100	↓	17.0	16.8	31.8	45.1	46.5	資本的収入に対する資本勘定繰入金の依存度を示しており、水道事業の経営状況を表す指標。
			C107	職員一人当たり給水収益 (千円/人) (給水収益／損益勘定所属職員数)／1000	↑	128,172	129,745	110,952	100,610	106,306	損益勘定職員一人当たりの給水収益を示すもので、水道事業における生産性について給水収益を基準として把握するための指標。近年指標は横ばいに推移している。
			C108	給水収益に対する職員給与費の割合 (%) (職員給与費／給水収益)×100	↓	6.7	6.6	6.6	6.6	6.6	給水収益に対する職員給与費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標。近年指標は横ばいに推移している。
			C109	給水収益に対する企業債利息の割合 (%) (企業債利息／給水収益)×100	↓	8.3	7.6	6.8	6.6	6.0	給水収益に対する企業債利息の割合を示すもので、水道事業の効率性および財務安全性を表す指標。
			C110	給水収益に対する減価償却費の割合 (%) (減価償却費／給水収益)×100	↓	41.5	41.5	39.9	42.0	43.3	給水収益に対する減価償却費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標。
			C111	給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合 (%) (建設改良のための企業債償還元金／給水収益)×100	↓	32.6	32.3	32.3	33.6	33.5	給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合を示すもので、建設改良のための企業債償還元金が経営に及ぼす影響を表す指標。
			C112	給水収益に対する企業債残高の割合 (%) (企業債残高／給水収益)×100	↓	452.3	434.1	419.4	420.1	419.2	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模および経営に及ぼす影響を表す指標。
			C113	料金回収率 (%) (供給単価／給水原価)×100	↑	78.8	78.7	85.5	84.1	79.6	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、経営状況の健全性を表す指標。
			C114	供給単価 (円/m <sup>3</sup> ) 〔給水収益／年間有収水量〕	↓	281.7	282.0	280.7	269.5	270.2	有収水量1m <sup>3</sup> あたりの給水収益の割合を示すもので、水道事業でどれだけの収益を得ているかを示す指標。
			C115	給水原価 (円/m <sup>3</sup> ) 〔(経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附属事業費－長期前受戻入))／年間有収水量〕	↓	規格改定に伴い比較不可	328.4	320.5	339.3		有収水量1m <sup>3</sup> あたりの経営費用(受託工事費等を除く)の割合を示すもので、水道事業でどれだけの費用がかかっているかを示す指標。
			C116	1箇月10m <sup>3</sup> 当たり家庭用料金 (円) 1箇月10m <sup>3</sup> 当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金＋10m <sup>3</sup> 使用時の従量料金	↓	規格改定に伴い比較不可	2,325	2,325	2,325		一か月に10m <sup>3</sup> 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す指標。税抜き
			C117	1箇月当たり家庭用料金(20m <sup>3</sup> ) (円) 1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金＋20m <sup>3</sup> 使用時の従量料金	↓	規格改定に伴い比較不可	5,275	4,503	4,503		一か月に20m <sup>3</sup> 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す指標。税抜き
			C118	流動比率 (%) (流動資産／流動負債)×100	↑	218.1	233.5	234.6	240.9	224.7	流動負債に対する流動資産の割合を示しており、事業の財務安全性を表す。100%を上回っており、流動負債に対する流動資産の割合が高く、短期債務に対する支払い能力があるといえる。
			C119	自己資本構成比率 (%) 〔(資本金＋剰余金＋評価差額など＋繰延収益)／負債・資本合計〕×100	↑	39.3	40.7	59.1	59.7	59.9	総資本(負債及び資本)に対する自己資本の割合を示しており、財務の健全性を表す。指標は年々上昇傾向にある。
			C120	固定比率 (%) 〔固定資産／(資本金＋剰余金＋評価差額など＋繰延収益)〕×100	↓	227.7	218.4	148.6	146.2	145.3	自己資本に対する固定資産の割合を示すものであり、財務の安全性を表す指標。
			C121	企業債償還元金対減価償却費比率 (%) (建設改良のための企業債償還元金／当年度減価償却費－長期前受戻入)×100	↓	規格改定に伴い比較不可	103.7	101.1	97.5		当年度減価償却費に対する企業債償還元金の割合を示すもので、投下資本の回収と再投資とのバランスを見る指標。
			C122	固定資産回転率 (回) (営業収益－受託工事収益)／〔(期首固定資産＋期末固定資産)／2〕	↑	0.10	0.11	0.11	0.11	0.11	固定資産(年度平均)に対する営業収益の割合を示すもので、1年間に固定資産の何倍の収益があったかを示す指標。値は高い方がよい。近年は横ばいで推移している。
			C123	固定資産使用効率 (m <sup>3</sup> /万円) 〔年間配水量／有形固定資産〕	↑	4.2	4.3	4.4	4.5	4.5	有形固定資産に対する年間総配水量の割合を示すもので、施設の利用効率を表す指標。
C124	職員一人当たり有収水量 (m <sup>3</sup> /人) 年間有収水量／損益勘定所属職員数	↑	規格改定に伴い比較不可	395,000	373,000	393,000		1年間における損益勘定職員1人あたりの有収水量を示す。水道サービスの効率性を表す指標。値が高い程効率が良いといえる。			

目標	分類	区分	番号	業務指標名	望ましい数値	試算結果					備考
						H30	R01	R02	R03	R04	
C	①財務	1健全経営	C125	料金請求誤り割合 (件/1000件) [(誤料金請求件数/料金請求件数/1000)]	↓	0.06	0.04	0.02	0.02	0.01	検針件数1,000件あたりの料金請求に関わる誤り件数を示す。料金関連業務の適正度を表す。
			C126	料金収納率 (%) [(料金納入額/調停額)×100]	↓	規格改定に伴い比較不可		91.3	91.4	91.2	1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時点において納入されている収入額の割合を示す。水道事業の経営状況の健全性を表す。H29精査
			C127	給水停止割合 (件/1000件) [給水停止件数/(給水件数/1000)]	↓	5.9	5.2	1.9	1.1	2.0	給水件数に対する料金の給水停止件数の割合を示す。水道料金の未納状況の度合いを見る。値は低い方がよい。
	②組織・人材	2人材育成	C201	水道技術に関する資格取得度 (件/人) 職員が取得している水道技術に関する資格数/全職員数	↑	規格改定に伴い比較不可		1.0	1.2	1.0	職員が取得している水道技術に関する資格数の全職員に対する割合を示すもの。技術の継承、水道技術者の確保の目安となる。
			C202	外部研修時間 (時間/人) (職員が外部研修を受けた時間・受講人数)/全職員数	↑	10.9	8.8	0.2	0.3	3.0	職員一人当たりの外部研修の受講時間を示すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標。*コロナ禍により外部研修の回数が減少している。
			C203	内部研修時間 (時間/人) (職員が内部研修を受けた時間・受講人数)/全職員数	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	職員一人当たりの内部研修の受講時間を示すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標。
			C204	技術職員率 (%) (技術職員数/全職員数)×100	↑	55.6	52.6	52.2	47.8	50.0	全職員数(水道事業体の実職員数)に占める技術職員の割合を表すもので、技術面での維持管理体制を示す指標。
			C205	水道業務平均経験年数度 (年/人) 職員の水道業務経験年数/全職員数	↑	9.4	8.8	7.9	8.0	6.7	職員が平均で何年水道業務に携わっているかを示すもの。人的資源としての専門技術の蓄積を表している。
			C206	国際協力派遣者数 (人・日) Σ(国際協力派遣者数×滞在日数)	↑	規格改定に伴い比較不可		0.0	0.0	0.0	水道事業に関する海外との技術協力の取組状況を表す指標。
			C207	国際協力受入者数 (人・日) Σ(国際協力受入者数×滞在日数)	↑	規格改定に伴い比較不可		0.0	0.0	0.0	水道事業に関する国際交流の取組状況を表す指標。
	③業務委託	3業務委託	C301	検針委託率 (%) (委託した水道メーター数/水道メーター設置数)×100	↑	100	100	100	100	100	水道メーター総数に対する検針を委託したメーター数の割合を示す。業務委託の度合いを表す指標。
			C302	浄水場第三者委託率 (%) (第三者委託した浄水場施設能力/全浄水場施設能力)×100	-	100	100	100	100	100	第三者委託(平成14年の水道法改正により制度化された第三者への技術上の業務委託)の実施状況を表す指標。
	③お客さまとのコミュニケーション	4情報提供	C401	広報誌による情報の提供度 (部/件) 広報誌配布部数/給水件数	↑	1.0	1.01	0.93	0.92	0.91	給水件数に対する広報誌配布部数の割合を示す。値が高いほど使用者が水道事業に関する情報を得やすくなる。
			C402	インターネットによる情報の提供度 (回) ウェブページへの掲載回数	↑	新規追加指標		42.0	26.0	33.0	インターネット(ウェブページ)による水道事業の情報発信回数を表す。お役様への事業内容の公開度合いを表す指標。
			C403	水道施設見学者割合 (人/1000人) [見学者数/(給水人口/1000)]	↑	0.8	0.8	0.1	0.1	0.1	給水人口1,000人あたりの水道施設見学者数を示す。お客さまとの双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標。
		5意見収集	C501	モニタ割合 (人/1000人) [モニタ人数/(給水人口/1000)]	↑	0	0	0	0	0	給水人口1,000人あたりのモニタ人数の割合を示す指標。お客さまとの双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標。
			C502	アンケート情報収集割合 (人/1000人) [アンケート回答人数/(給水人口/1000)]	↑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	給水人口1,000人あたりのアンケート回答人数を示す。お客さまニーズの収集実行度を表す指標。
			C503	直接飲用率 (%) (直接飲用回答数/アンケート回答数)×100	↑	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	アンケートにおいて、水道水を直接飲用していると回答した人の割合。
			C504	水道サービスに対する苦情対応割合 (件/1000件) [水道サービス苦情対応件数/(給水件数/1000)]	↓	0.04	0.04	0.11	0.14	0.21	給水人口1,000人あたりの水道サービス苦情件数を示す。お客さまの満足度を表す指標。
			C505	水質に対する苦情対応割合 (件/1000件) [水質苦情対応件数/(給水件数/1000)]	↓	0.89	0.89	0.93	0.28	0.35	給水人口1,000人あたりの水道水の臭いや味など水質に関する苦情件数を示す。お客さまの満足度を表す指標。
			C506	水道料金に対する苦情割合 (件/1000件) [水道料金苦情対応件数/(給水件数/1000)]	↓	0.04	0.04	0.00	0.11	0.00	給水人口1,000人あたりの水道料金に関する苦情件数を示す。お客さまの満足度を表す指標。